

# ひいくんの町 あるく

僕の記憶の故郷には、  
いつも彼が歩いていた

監督：青柳拓 撮影：山野目光政  
プロデューサー・録音：植田朱里  
副プロデューサー：熊澤海透  
録音：福田陽 編集：朝野未沙稀  
2017年/日本/DCP/カラー/47min  
<http://hikun.mizukuchiya.net/>

# シャッター街を ほのかに明るく照らす 珠玉の47分！

かつての町は今でも温かく、いつまでも優しい。

弱冠23歳の新鋭、青柳拓のデビュー作。

故郷への郷愁と愛しさを奏でる“ほっこり”ドキュメンタリー。

2017年座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル・コンペティション部門入賞。

4月に開催された地元上映会では1000名以上の観客を動員、圧倒的な支持を集め、ついに全国劇場公開が実現。

監督の故郷、山梨県甲府盆地の南・市川大門。その町並みをヘルメット姿の少年のような風変わりなおじさんがひよこたんと歩く。彼は町の人々の手伝いをして、“ひいくん”と愛称され温かく受け入れられている。いつも、当たり前のように町があり、人がいた。

和紙の町  
市川三郷町



## 「地元で映画、撮りたいなあ」

なんとなく考えながら町を歩いていました。大学でドキュメンタリー映画を制作するため、企画を考えていた時、僕は地元・市川大門にいました。明確な理由はなく、ただカメラを持って誰もいない商店街を歩いていました。

すると、いつものように「ひいくん」が歩いていました。幼い頃からなんとなく気になっていた人、友達と話してもみんな彼を知っています。

「町長さんよりも有名人」と言われるほどの彼でしたが、彼が普段何をしている人なのか知っている人はほとんどいなかったのです。誰もいない商店街を、楽しそうに歩いていて彼を見て疑問に思いました。「なんでこの人はいつも楽しそうに、歩き続けているのだろう!？」その理由が気になって気になって、仕方がありませんでした。

ひいくんを追いかけて、町の今と昔を見つめ、彼の歩いた先々で出会う「人」との交流の中には、教科書には載っていない故郷のもう一つの歴史がありました。それは映画でしか表現できなかったものだと思うのです。

青柳拓 (監督)



## すばらしい「ひいくん」

昔、どんな町にも「ひいくん」のような人がいた。「まれびと」または商店街の「守護神」として愛された。『ひいくんのある町』は、うつろいものとかかわぬもの、その両方を淡々と、かつ克明に映し出す。それは町の歴史を、愛着こめて過不足なくえがくことにつながった。こんなふうには撮られたら市川大門の町も満足だろう。青柳拓とそのチームはよい仕事をした。

関川夏央  
(作家)

## これは滅多にない 楽しいドキュメンタリーです。

わがふるさとの町の人気者である「ひいくん」のおかげで、どこにでもありそうな町がどんなになつかしく生き生きとした情味に輝いているか。いや、この町の気風こそ、この上なく善良な「ひいくん」にとってかけがえのない貴重なものであることか。これはふるさとによせる讃歌です。ドキュメンタリーはこういうこともできるのです。

佐藤忠男  
(映画評論家)

監督=青柳拓 プロデューサー・録音=植田朱里 副プロデューサー=熊澤海透 撮影=山野目光政 録音=福田 編集=朝野未沙稀 題字=渡井秀彦 (ひいくん)  
アドバイザー=安岡卓治、島田隆一、山内大業、辻井 深 宣伝=細谷隆広 配給=水口屋フィルム 2017年/日本/DCP/カラー/47分 <http://hikun.mizukuchiya.net/>

9.20から  
ロードショー

イブニングショー=9/2(土)~15(金)16:50  
モーニングショー=9/16(土)~22(金)9:30  
9/23(土)~29(金)10:20/11:40  
9/30(土)以降上映未定、詳細は劇場もしくはHP参照下さい  
初日出演者舞台挨拶および、期間中トークショー有り

ポレポレ東中野  
03・3371・0088

JR東中野  
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分  
地下鉄大江戸線東中野駅A1出口より徒歩1分

料金=当日のみ¥1,000円均一

<https://www.facebook.com/hikunnoarukamati/> @hikun\_town\_movie